

(十二月のことば)

宗家

岳精会は

吟道を糧に学びあひ

ご縁と人を宝となす

コロナは問題に問合いを詰め、もっと突のある対策がなされたいものだろう。PCR検査を始め科学的な対策である。科学力と経済力がある日本なら出来るはずだ。広い世界に目を向けると、その国独自の方法で効果を出している国もある。右顧左眄してせたらに騒ぎ立てるのがイケない。死活問題に晒されている人々が可哀そうだ。

さて岳精会はコロナ禍下、制約を受けながら、やれることを模索しながら本部も、各会支部・教場に於いて活動してきた。

昇伝審査は流統にとうて最も重要な行事であるが、今年は特別対策として各地での審査は各指導者にお願ひして審査を完実施した。

すると、この不便が逆に普段お顔をあわせることのない会員さん、或いは伺ったことのない教場とに心の交流が成された。且、この報告があり、又受審者からは例年以上の真摯な内容の論文が送寄せられた。

会員さんを大切に育む姿勢、またお世話になった指導者そして吟友に感謝する心が窺われ、改めて岳精会の素晴らしさを思ひわされた。

「吟道は不要のものではない、事を確信する。」
また「指導者は伝導伝達であり共に学ぶ姿勢で有意義に岳精会が育まれる事を認識する。」

何よりも大切なものは人生孤独ではない人間関係とご縁だ。

じっくり耐える日々が続くと思われます。どうかこの状況に負けることなく希望を持って年を越されますよう祈念致します。

(令和二年十二月)